

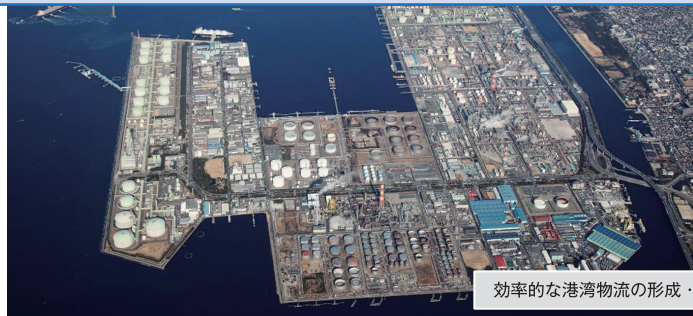
「大阪湾港湾の基本構想」はこれまで概ね10年ごとに策定されてきました。前回の基本構想は平成17年に「大阪湾港湾の基本構想～関西シリコンベイ構想～」として策定され、その後の社会情勢の変化を捉まえ、今後の10年先を見通した新たな「大阪湾港湾の基本構想」を、第26回大阪湾港湾連携推進協議会（H26.8）において策定することとしました。

また、同協議会において、学識経験者、港湾関係者や行政機関からなる「大阪湾港湾の基本構想懇談会」（座長：黒田勝彦神戸大学名誉教授）を設置し、今後10年の将来を見通した「基本構想」を諮問いたしました。その後、平成26年から平成27年にかけて5回の懇談会が開催され、懇談会より「大阪湾港湾の基本構想（案）」を提言頂きました。

そして、平成27年12月18日に開催された第27回協議会において、「大阪湾港湾の基本構想～スマートベイの実現を目指して～」を策定しました。

Traditional Industry and Culture（伝統を活かし育む）

■歴史的に強みのある大阪湾の産業を支える港湾施設の充実



効率的な港湾物流の形成・強化

■みなとに対する市民の認知度や親しみを深める取り組みの推進



運河を活かした交流空間の形成

Sustainable Development（持続的発展を支える）

■経済活動を支えるためのさらなるインフラの充実



物流ネットワークの充実・強化



ミッシングリンクの解消による連携強化

■安価で安定したエネルギー供給の対応



エネルギー及び資源の輸入拠点となる港湾機能の強化

■自然災害に対する安全・安心の推進



基幹的防災拠点における高次支援機能の深化

Market Globalization（国際市場と繋がる）

■成長著しいアジア諸国とのシームレス化



アジア地域とのシームレスな複合・貫輸送の強化

■貿易構造の変化に適切に対応した施設の高度化



TPPやFTAを見通した農林水産品等の輸出対応施設の機能強化

Regional Cultivation（成熟した地域社会を切り拓く）

■成熟社会に即して既存ストックを「賢く使う」



既存ストックを活用したクルーズ船の誘致

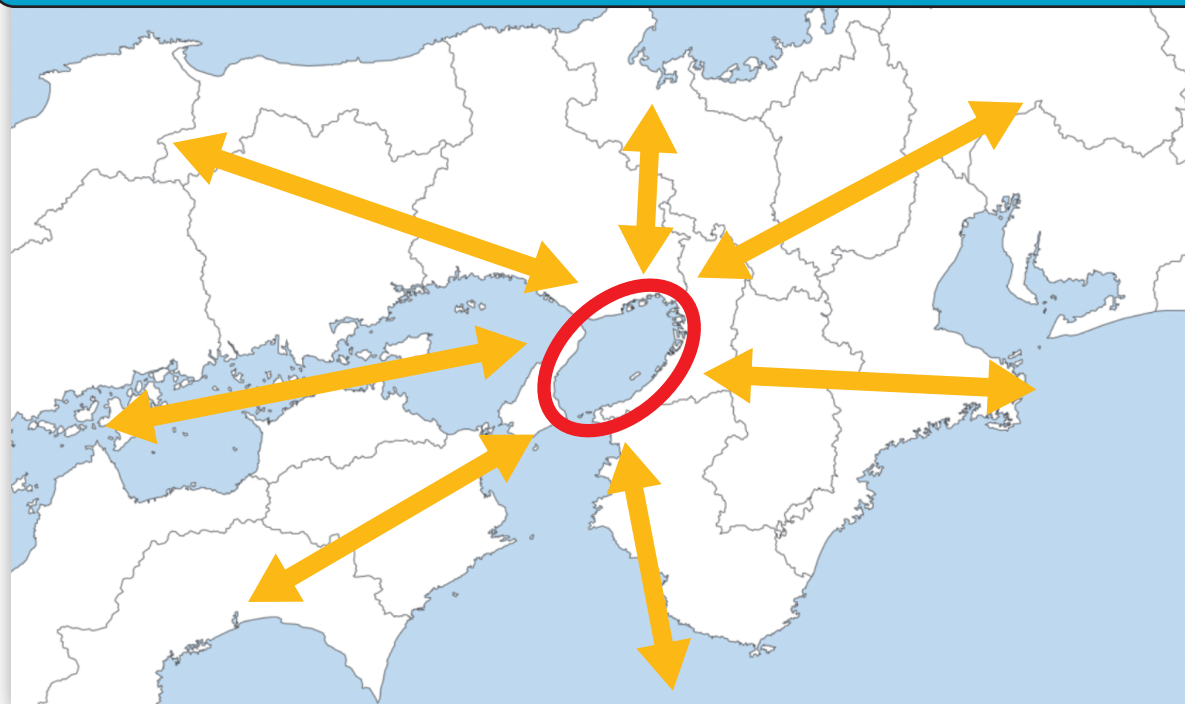
■多様な主体の連携に基づいた海域環境の改善・創生



住民との協働による海域環境保全・改善

スマートベイ構想の実現に向けて

本基本構想で示した取組の実現に向けては、大阪湾港湾連携推進協議会や産学官一体となって構成される国際物流戦略チーム等を活用しつつ、港湾関係者のみならず、他分野も含めた幅広い関係者と連携して取り組んでいきます



Advanced Technology and Society（最先端をリードする）

■港湾の国際競争力強化



基幹航路における船舶の大型化への対応

■世界的な低炭素社会実現の動きに対応するためのICT等の技術の活用



ハイブリッド化した荷役機械の導入

大阪湾港湾の基本構想懇談会

<懇談会委員>（第5回（最終）懇談会開催時）

赤井伸郎（大阪大学大学院教授）、今西珠美（流通科学大学教授）、上村多恵子（（社）京都経済同友会理事）、小野憲司（京都大学防災研究所教授）、◎黒田勝彦（神戸大学名誉教授）、竹林幹雄（神戸大学大学院教授）、西田修三（大阪大学大学院教授）、西田純二（京都大学経営管理大学院経営研究センター特命教授、（株）社会システム総合研究所代表取締役）、松島格也（京都大学大学院准教授）、森隆行（流通科学大学教授）、神田彰（（社）関西経済連合会地域連携部長）、伊藤隆夫（（社）日本船主協会阪神地区船主会議長）、溝江輝美（大阪港運協会会長）、佐伯邦治（兵庫県港運協会会長）、豊田巖（阪神国際港湾株式会社専務執行役員）、池田秀文（大阪湾広域臨海環境整備センター常務理事）、大阪府港湾局長、兵庫県県土整備部長、大阪市港湾局長、神戸市みなと総局長、近畿運輸局海事振興部長、神戸運輸監理部海事振興部長、近畿地方整備局副局長、港湾空港部長、神戸港湾事務所長、大阪港湾・空港整備事務所長（◎は座長）（オブザーバー）経済産業省近畿経済産業局総務企画部、国土交通省大阪航空局空港部、近畿地方整備局道路部